

議会活性化 特別委員会会議録

令和6年7月17日(水)午前10時00分
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

議会活性化特別委員会

日 時：令和6年7月17日（水）

午前10時～

場 所：3F 議会委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

1) 議会基本条例の検証について

2) 議会報告会について

- ・運営について
- ・テーマについて

3) その他

4 閉 会

出席議員（10名）

1番	鬼田岳哉君	2番	宮内勇二君
3番	戸田大我君	4番	内田和彦君
5番	山崎晴生君	6番	真家功君（副委員長）
7番	香取憲一君	10番	鈴木俊一君（副議長）
11番	村田春樹君（委員長）	13番	谷仲和雄君
14番	長島幸男君（議長）		

欠席議員（なし）

議会事務局職員出席者

局長	長谷川 勝彦
次長	須賀田 千恵子

午前10時00分 開会

◎開議の宣告

○委員長（村田春樹君） 皆さま、改めましておはようございます。

副委員長が若干遅れるという報告がございましたので、ただいまより、議会活性化特別委員会を開催いたします。

このまま挨拶をさせていただきたいと思います。

本日、議会基本条例の検証について皆さまから評価シートが届きましたので、まとめてあるもの、さらには議会報告会のことにつきまして、運営についてテーマについて皆さまと一緒に議論をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

以上です。



◎協議事項

1. 議会基本条例の検証について

・議会報告会について

○委員長（村田春樹君） それでは、本日の関係資料につきましては、スマートディスカッションに保存されておりますので、一度更新をしてからお願いしたいと思います。更新大丈夫ですかね。

それでは、早速議事に入ります。

協議事項、議会基本条例の検証についてを議題といたします。

皆さまのほうにお配りさせていただいております議会基本条例の評価シート、これをひとつずつ見ていきたいと思っておりますけれども、やり方としては第1条、条項、評価をどうするか。評価に従って理由、今後の対応方針などをどういった形でこの中から抜粋していく。さらには追加するものがあればその場で手を挙げていただいて、それでも構いません。皆さん忌憚のない意見をいただきたいと思っております。

それでは、はじめていきたいと思っております。

第1条につきまして、この条例は、唯一の議決機関として二元代表制の下、議会と議員の基本理念に基づきその役割を明確にし、市民との対話を通じ市民の負託に応えるべく、継続的な議会改革を推進し、活発なる議論を図り、安全安心なまちづくりと、市民生活の向上及び市政発展に寄与することを目的とする。ということでございますけれども、評価のほうはBの方が

2人、Dの方が8人ということだったんですけれども、これは多数決みたいな形でD 8人いらっしやるので、評価の該当なしということでもよろしいでしょうか。

[「異議あり」の声あり]

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 今話の進め方で、なるべく多数決というような捉え方ではないと思うんだよねこういう話して。あくまでも第1条のDというのは、ほんとの基本条例の原理原則の話であって、これは普通の改革というのが議会改革の進めていくべき形なので、これを目指して取り組んでいくというそういう捉え方で、こういうところが一番肝心な部分になると思うので、あくまでも協議の場なので、なるべく全会一致になるような話の進め方で。あとは委員長の話の進め方の手腕によると思うのですが、簡単に多数決という言葉は、あまりこういう場にはそぐわないと思いますのでその点だけ指摘しておきます。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。それでは、中の理由を見ていきたいと思えます。

- ・本条例の目的を理解しているかの現状は概ね達成できていると考える。
 - ・条文の通り、目的は変わりません。
 - ・特に議会改革において、議会ライブ中継や会議録の公開度合い等、他自治体に比し、先進的な取組を行っていることを評価します。
 - ・原則的に従うものと考えます。
 - ・評価なし。
- このようにあるんですけれども、
また、今後の対応方針としては、
- ・議会で問題等が発生した場合等この基本条例に則って自らを省みてからという視点を徹底すべきであると感じる。
 - ・条文の通り、目的は変わりません。
 - ・議会改革に終わりはないので、継続的に実施することが肝要です。
- とございます。

こういった中で、皆さまどのように評価していったらよいでしょうか。

鈴木委員。

○10番（鈴木俊一君） このまま例えばBが2人でDが8人だったとこのまま載せるという、ひとつにまとめたほうがいいんですか、議会全体としてはAだったBだったというふうに

結論を出していく。では、ひとつにまとめたほうが良いということですね、わかりました。

○委員長（村田春樹君） 香取委員。

○7番（香取憲一君） 確認させてください。条文を検証するにあたりまして、ごめんなさいまだ会議録全部は確認していないのでこの発言で確認させてもらって申し訳ないのですが、当初はこれは検証に値しませんというふうに最初言われたんですけど、それはやっぱりそうではなくて、検証していきましょうよという話しが確かあったと思うんですね。検証した結果Dなのか、そこらへんのところがDって検証に値しない的な感じでしたっけ。

○委員長（村田春樹君） 評価の該当なし。

○7番（香取憲一君） 評価の該当なしか。

○委員長（村田春樹君） どうします、そしたらDと書いた人に説明してもらったほうが良いですか。

今回初の検証なので、あんまり堅苦しくやるわけではなく、さらっと評価検証して出していきたいと思っているんですけども、これが重要なのはわかっているんですけども、こればかりに時間を囚われてしまうというのも、この議会活性化特別委員会として勿体ないのかなと思いますので。

香取委員。

○7番（香取憲一君） 度々すみません。今後の対応方針のところ、議会の問題等が発生した場合、基本条例に則って自らを省りみる、これはわたしが出したんですけども、わたしはこの思いだけなので、原理原則谷仲議員が先ほどおっしゃいましたけど、基本中の基本のこのことだと思うので、これを現時点でどうこうということではないのかなと。評価についてはわたしはBで書きまして、対応方針は徹底すべきであると書きました。その原理原則を忘れてはいけないということの思いであります、わたしの意見です。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 確認なんですけど、結局これ評価して評価結果というのはどこに出すとか、どの人にしてもらおうとか、市民全体という形ですか。

○委員長（村田春樹君） それについて前回の委員会でも話したんですけども、評価とって議運に出して全協に出して、最終的にはホームページとか市民の方に見てもらえるような形にしていきたいと思っております。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） であれば、評価のほうも全部絞っていくしかないと思いますし、どれかひとつにまとめるという形。評価として多いところになってくるのかなとは思いますが、その理由とか今後の対応方針のところは評価はいいとしても、こういう意見が出たよというのは残すような形でやっていけばいいのかなとは思いますが、多分全部委員長が読み上げてやっていたら大変だと思うので、1番は評価の該当なしという形で他に意見があればという形でバンバン進めていってもらえればいいんじゃないかと。それぞれの委員がこのシートに向き合ってやった結果だと思うので。

以上です。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。一応この理由と今後の対応方針についても全て載せたほうがいいのか、それとも少し絞って議運に出すのかということですかね。評価のほうは、自分のほうで例えば1番Dでよろしいですかということやっていかせていただきたいと思うのですが、理由のほうに関しましては、例えば本条の目的を理解しているのかとはじまるところ。さらには一番下の評価なしと書かれているもの。原則に従うものと考え。そういったもの、いろいろとニュアンス的に違うところと感じますので、そういったところを皆さんの中で、いらぬものいるものを言っていただければと思います。取り敢えず第1条のほうはDのほうで進めていきたいと思いますが、それに見合うような形の理由、今後の対応方針等を議論していきたいと思います。1個だけじゃなく、2個3個とできる限り多くても構いません。

宮内委員。

○2番（宮内勇二君） Dに決まると理由に関しては、Bの評価の意見も残ってしまうので、そうするとみんな時間かけてこれだけの人数が評価シート作成したわけであって、DであればDの意見だけ載せればまた協議する必要もないのかなと。Bの理由が載っちゃうと、Dの評価をしたのにBの理由が載っちゃうわけですね。その前段でこの10人なら10人が、これだけの評価シートつくり上げたわけであるので、そうするとここからまた話をしちゃうと、今までのあれが無駄になっちゃうのかなと。そしたらDの意見だけ拾っていけばそれだけでつくられちゃうのかなと思うのですが。

○委員長（村田春樹君） 山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 宮内議員が言ったとおり、Dで決まればDの意見というところが理由と今後の対応方針というところが、Dの理由と今後の対応方針というところが載ってくるとは思うのですが、これは他の委員さんも出してもらった貴重な意見だとは思いますが、例えば

その他の意見個々の理由のところと今後の対応方針を1項目ずつに絞って、こっちの右側のところにその他の意見という形で様々な意見、それぞれの委員が評価した結果だとは思っているので、他の意見として載せるか、載せ方はあれだとは思いますが、その評価に決まったものに関して理由と今後の方針というところは1個ずつくらい出して、他の意見に関してはどういうふうに載せるかということは別に考えたらいいのではないかと思います。

○委員長（村田春樹君） 他市町村の評価、検証を見ていると、例えばD評価にも関わらず、皆さん出した意見なのでということで、意見全部理由、また今後の対応方針など、それを全て載せている自治体もあったので、そういうやり方もあるのかなと。そうすれば皆さんの今まで出してきた意見というのがある程度反映されていくのかなと思うのですが、そういうふうにしていてもいいですか。それともD評価ならDなりの理由、今後の対応方針ということ、さらには先ほど山崎議員が言っていたようにその他のという形でやるのか、ここさえ決まっちゃえばあとはうまく流れていくと思うのですが。

戸田委員。

○3番（戸田大我君） これは議運に出したりとか、市民が見たりするときに、評価がDなのに、理由に評価しているみたいなのが入ると混乱しちゃうのかと思うので、注釈とかがあればいいのか、先ほど山崎議員がおっしゃったように、その他の意見とか載せるのもわかり易いですし、注釈か何か方法があればいいのかなと思います。

以上です。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） わかり易く言うと、これ委員長報告、採決の前に討論とかの前に、よく各委員長報告、要領は委員長報告と一緒に、これに対してこういう意見がありました。それで採決の結果こうなりました。これの構図と一緒に考えれば今後の対応方針、これわたしの考えだとすると、例えばこの第1条の目的というのは変わらないよね。これは普段、普段ってずっと続けていくという意味の普段、普段の改革をしていくというところがこれから普段の改革をしっかりと続けていくというところが対応方針であって、個々の理由のところは個々に皆さん書いたこういう意見がありました。こういうふうな理由がありますというのを載せて、今後の対応方針はこうしますと言うと、この委員会としての対応方針はこうですという結果が出たことに対する説明が、この理由のところで見たら人が読み取れると。そういうところで委員長報告の要領で、一つ一つ見て行けば何ら難しいことはないと思うんですけど、そういう形でどう

ですか。

○委員長（村田春樹君） わかりました。ありがとうございます。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） さっき言った今後の対応方針というのは、個々の協議の場で委員の皆さんがしっかり納得できるところを出していくと。そこに至るプロセスのところがこの理由で、こういう意見がある中で、この委員会の方針としてどう出していきますかという持っ
ていき方だと思います。

○委員長（村田春樹君） 今後の対応方針について議論していきたいと思うんですけども、皆さん理由を先ほど谷仲議員も言ってらしたように、出してくださった中で今後の対応方針として決めていきたいと思うんですけども。

内田委員。

○4番（内田和彦君） 今1条で時間が結構かかってしまって、しっかり進めていく方向性を予めやっておいていただければということで、1条に関してはBが2人、Dが8人ということで、Bの概ね達成されたということで、この条文に対してその通りだよという評価だと思うんですけども、Dの評価の該当なしというのも条文に対して評価の該当というか、その通りだよというような意見だと思うんですけども、その辺は委員長の裁量で今後の対応方針というのはそんなに難しい問題じゃないと思うんですよね。わたしも全部ぱらっとは見たんですけども、条文の中でしっかりと皆さんの意見を聞いて議論をしなければいけない、一人一人の思いをもう少し入れ込んでみたいな感じでやっていかなければならないものもあるので、みんな一辺倒にひとつひとつ同じような議論だと時間かかると思うので、しっかり決めてやっていくところはやっていながらじゃないと時間かかってしまうのかなと思います。

○委員長（村田春樹君） そしたらこの評価をDにするとして、理由は全て残す、今後の対応方針として条文のとおり目的は変わりませんというものを抜いた2つでやっていいですかね、大丈夫ですか、ありがとうございます。

では、次に2条のほうにいきたいと思います。

2条のほうもDで進めさせていただきたいと思います。理由のほうはこのまま載せるとして、2つ目の絶えず改善するために、より積極的な質問、確認を行う必要があります。これでよろしいですかね、大丈夫ですか。

[「異議なし」と認めます]

○委員長（村田春樹君） 次が第3条です。B4、C5、D1ということで、概ね達成され

たが4人、今後努力を要するが5人、評価の該当なしが1人ということで、これについては今後努力を要するCということによろしいですかね。

真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） あとから来て申し訳ありませんでした。

わたしの意見なんですけどここについては、議会の責務と活動原則ということで、議会は原則なので、この辺はDが1人おりますが、Dというものの概ね達成されているのではないかという意味じゃないかと思うんですね。そうすると、B4、D1なので同じ数になりますが、この辺を今後努力を要するというふうにしちゃうと、非常に基本中の基本から検討するという形になるので、この辺は概ね達成されているのでいいのではないかとわたしは思うのですが。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） このABCDの4つある中の評価の該当なしというのは、これわたしの捉え方なんですけども、評価の該当なしというのは、これは当たり前のことをやるのが当然だという意味であって、決してできているという解釈ではないと思うんですけども、そういうふうに捉え方によって違いますから、これはしっかり分けて考えた方がいいかなと。ちなみにわたくしの場合はD評価については、これは基本条例中の大原則の部分であるから、これは自己評価でできているじゃなくて、さっき言いましたけども、不断の継続という意味で捉えないといけないという話しをしています。そうすると、これはもう継続し続けていくということだからできているという評価にあたらなと思うんですよ。いちようそういう捉え方の違いがありますから、そこら辺委員の皆さんで考えた方がいいと思います。

○委員長（村田春樹君） 鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） 今の谷仲議員の話というのは、例えば第3条で言えば、開かれた議会を目指すということであれば、目指し続けているんだからそもそもそこは当たり前のことで評価に該当しないよねという、そこからまず外そうよというような話しの理解でよろしいですか。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 外す外さないとかじゃなくて、ここの今話している内容で、これは継続して続けていかなければならない、努力していかなければならない、そういう捉え方でわたくしは捉えています。

○1番（鬼田岳哉君） わかりました。

○副委員長（真家 功君） Cに近いという意味。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） Cというと今後努力を要する、これは明らかにできていないというところの評価だと思うんですよ。このDというのは評価が該当しないというのは、これは継続していくのが当たり前の話であって、できていても今後よりまた改革をしていくという意欲がないと、議会改革の本質の部分だと思うのですが、そういうふうには捉えています。あとは皆さんどう捉えているかは聞いていただければ。

○委員長（村田春樹君） 内田委員。

○4番（内田和彦君） A B C Dの評価今聞いていると、皆さんそれぞれ違う思いでこれを書いているとなると、この辺統一してやらなければ、中々まとまらないのかという気がするんですけど、どうでしょうかね。

○委員長（村田春樹君） ほんとにそうですね。例えば先週議員定数と議員報酬につきましてもD評価、1条、2条についてもD評価でという話しありまして、逐条解説のもと色々話がありました。しかしながら、いろんな思いで今回検証評価出してもらった中で、A B Cは皆さんどういうものなのか、Dについてどういうふうに扱うのかという話しだったんですけども、そこをしっかりとしなかったというところではありますが、1条、2条さらには議員定数と報酬のところのDということで、評価の該当はなしということなので、それなりに皆さんなんとなくDというのはこういうものじゃないのかなというふうに関心を持った人は感じとったのかと思いますが、皆さんがそれぞれいろいろな思いでDを付けたと思うので、評価の該当がないから取り敢えずCではないよねって自分は考えているわけですね。AとBどちらに入ってくるのか、一番D評価というのはジョーカーみたいなものなのかなと思っているので、AかBに含めるようなニュアンスで取り敢えず今回考えてはみたのですが、今現状3条で詰まっていますけれども、Cが5人、Bが4人、Dが一人ということで、自分の中でAかBにDが入ってくると考えると、ちょうどぴったり割れるような形になるので、それで先ほど副委員長のほうがこれはBのほうがいいんじゃないかということでお話しがあったと思うんですよ、そうですね。

○副委員長（真家 功君） はい。

○委員長（村田春樹君） 鈴木委員。

○10番（鈴木俊一君） 最後の述語は目指すなんですよ。多分開かれた議会を目指していない方って議会にはいないと思うんです。ということは、もしC判定にした場合目指していないということになるような気がするんですよ。ですから全員目指しているということと言

例えばB判定のほうがいいのかなど。努力ももちろん必要だけれども、評価を見たときにCという努力を要するということは、努力していないというふうに取り取ると思うんですよC判定の場合、だからもっとこれは同数5対5になった場合には、読み手とか市民の見る人の評価とかを考えると、Bにしといたほうがいいのかなどと感じがします。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。先ほど鈴木議員が言ってましたように、市民に信頼される開かれた議会を目指すと書いてありますので、これについて努力するのは当たり前ですから、努力はずっとしていますし、これは概ね達成されたそれ以上にやっていくんだよということの意味でBということで、そういう形でやっていきたいと思うので、よろしいですかね。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 鈴木議員が言ったように目指すになっているんですけど、今評価をする大前提で今回1期目で入ってきた方と自分もまだまだですけども、あとは先輩方がいてというところで視点が違うし、今議員になってから見ていく中で、開かれた議会を目指している感じがしないと受け止めているのかなというふうに思います。自分もそう思います。目指しているということを言うのは簡単なんですけど、じゃ、どうやって目指しているのか、何か開拓していることはあるのかということの実感がないとは思うんですよ。なので、ここの活動原則として書かれていますけども、信頼されて開かれた議会、今現状議員になってみてそれを実感することができて目指しているという行動を自分たちでしっかりと見れているのかということと自分は見れていないので、これは努力を要するというような評価になったんですけども、その立場とか今まで長年の経験とかで、全然経験則で評価が変わってくると思うので、多分これ決まらない感じがするんですけど、戻っちゃうんですけど、そういうふうな解釈の仕方とか内田議員が言ったように、統一な見解というかそういうふうな見方、これはこういうふうな見方で見ていきましょうというのがみんなバラバラで全部やったので、自分で考えて自分の意見として理由を考えていったときには、バラバラになっていっちゃうのかというところがありますね。

○委員長（村田春樹君） 香取委員。

○7番（香取憲一君） わたしも3条についてはCを入れました。先ほどの話ですけど、目指すという大原則の目標があって普段の改革努力をしていく、それを目指すためにみんな頑張る。じゃ、今現状はどうなのとなった場合の評価の仕方が、今山崎議員がおっしゃったように、それぞれ個人の思いが違うわけで、なのでわたしは自分としては今は中々こうなんじゃないの

という思いがあってC評価だったので、自分なりに今後の対応方針はそれを克服するためにこういうふうにしていったほうがいいんじゃないですかというのが今後の対応方針で書いたつもりだったので、そういう感じですね。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。第3条議会は次に掲げる原則に基づき、行動を行わなければならない。

（1）公平性、透明性等を確保し、市民に信頼される開かれた議会を目指すこと。ということなんですよね。目指しているのはおそらく目指しているんですよ。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 今後努力を要するじゃなくて、今後継続的に努力を要するとか捉え方で努力していないというふうに受け止められちゃうというご意見も先ほどありましたけど、言い回しの問題になりますけど、そうするとまた評価やり直しになっちゃうので難しいと思います。

○委員長（村田春樹君） 真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） この評価シートなんですけど、皆さん個人の意見で、個人の意見が出て誰か先生がいてまとめる人がいないわけですよ。確かに多数決でいいのかどうかということも疑問であって、わたしが今日思ったのは、この評価シートが本当にCが多くなった場合にどうなのかなと。Cというのはそんなに多くなくていいのではないかと最初はわたしは思いました。Cいっぱい付けた人もいるのかもしれないですね。それはみんな主観なのでいろいろあると思うのですが、より上を目指しているとCになっちゃうのかな、考え方なんですよね。そもそも誰か先生がいて最終的に評価する人がいると違うんですけど、そうじゃなくて皆さんの意見をまとめたやつなので、その辺話合う機会が必要ですよ。

○委員長（村田春樹君） そしたらCの今後努力を要するところを、継続的に努力する必要がある。

真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 全部そうなっちゃうよね。

○委員長（村田春樹君） 全部そうなっちゃうけれども、そういう今後努力を要するよりも、継続的に努力をしていくとかそういった形のほうが、まだニュアンス的にはいいのかなと思うんですけど、どうなんですかね。

真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 今後努力を要するというのは、今ではダメだということですよ

ね、ハッキリ言っちゃおうと。今ではダメだからここは直せということだから絞られてくるのかとわたしは思うんですよね。そんなにいっぱいこれがあったらおかしいのかなと思うんだよね。

○委員長（村田春樹君） 鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） 今日の課題というのは、最終の条項までいってA BなのかCなのかDなのか、判別を付けるというところまでがゴールという会議でよろしいですかね。

○委員長（村田春樹君） 今の進行度合いを見るとさすがに全部は無理なので、例えば今日は1ページやって次の議会報告会の話題に移り、その後これ持ち帰っていただいて、もし手直しが必要だという方には議会事務局のほうに再度送っていただいて、評価し直しということも認めたいと思います。

鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） 幸いなことに、前回委員長、副委員長、谷仲議員のほうで話してもらって前倒しにしてくれたので、まだ時間は確かにあると思うので、ひとつひとつやっていければ。真家副委員長がおっしゃったとおり、例えば改革が必要な8条とか、17条とかそこにピンポイントでどうしていくかということが今後必要だと思うので、なかなか最初の入りは難しいと思うのですが、委員長、副委員長でうまく組み立てていければ無理のないように思いまして、お話しさせていただきました。

○委員長（村田春樹君） 真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） いわゆるCをこの会議で洗い出すというのが目的だと思うんですね。Cの部分の洗い出して、そこをみんなで検討し直していくということなので、いかにCを話し合っ洗い出すというのがこの会議なのかなと思うんですよね。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 例えば課題を洗い出すというところの、Cを洗い出すという今副委員長の発言がありましたけども、そののところも見ていくと、客観的にまず評価事項のCの部分、このところをチェックしていくというやり方であれば、今後努力を要するとか、今後とも努力を要するとか、そういう言葉の言い回しの話じゃなくて、本質的な部分でこの委員の中でCというのが例えば最初に出てくるCというのがここ5つあります。この部分を掘り下げてやっていくというそういう形になるのかなと。そうするとページめくっていくと、3条の1の議会の責務と活動原則Cというのが5ありますね。

次（2）でいくとCが6、（3）Cが5、（4）Cが7、Cというのが記入してあるところこのところを中心に話を進めていくという、そういう取り組み方になるかと思います。1回

暫時休憩挟んで、そのところ修正してから再開してもいいのかなと思うんですけど。

○委員長（村田春樹君） そうですね。

ここで暫時休憩とさせていただきます。

午前10時43分 休憩

午前10時51分 再開

○委員長（村田春樹君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

今いろいろ議論されている中で、C評価今後努力を要するという評価のものについてだけ全て洗い出していきたいと思いますので、印のほう付けておいてください。今現状やっている第3条（1）（2）（3）（4）（5）、第4条の（4）、第6条下のものも2つ。次に第7条、議会報告会について3つですかね。次のページに飛んで第7条、第8条、第11条、次のページに飛んで2もそうですね。

次に、第11条の5、第16条、第17条、第19条、以上がCが5人以上評価が出ているようなところで、これについて評価を進めていきたいと思います。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 人数でくくりを入れちゃうわけ、Cに関して。例えばCの意見が、書いた人が一人とか二人とか三人、そのところはどういうふうに見るか。さっき冒頭で言ったなるべくこういうのは多数決というのはそぐわないよという話しをしています。

○委員長（村田春樹君） 今回今出したのは、一番Cが多かったところを出させてもらったんですけども、それ以外のCが例えば3人とか2人とか1人でも、ちゃんとその部分も見て評価のほうもしていきたいと思いますので、取り敢えずは今Cが5人以上いたところ、これに関して次の報告会の話とかも進めなければいけないので、持ち帰って1回見てもらったほうがいいですかね。

真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 人数で今洗い出したんですが、ここからもう1回皆さんで理由とかいろいろ確認しながら、そこからまた削っていくという方法がいいかと思うんですね。

○委員長（村田春樹君） 皆さんに今回出してもらった評価検証についても、いろんな角度から評価検証見てもらいたいので、取り敢えず今言った箇所についてCが多かった。自分らが何を付けたかおそらく皆さん覚えているでしょうから、改めて一度評価についてこれでいいの

かどうか、いろんな角度から検証してもらって、次回の委員会の2週間ぐらい前に、事務局の方にメールをもう一度送っていただいて、そこからそれについてざっくりやっていって、残りのものについても少しずつやっていきたいと思いますので、しっかり時間をかけながら評価を出していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） 委員長確認よろしいでしょうか。

まず、資料ピックアップして、ピックアップしたものに対して我々がもう1回見直しをして、数回の会議で話し合いをして、それ以外Cがついたものだったり、該当するものしないものを今後何回かの会議に分けてやっていくという頭から大きいものを潰して摘まんでやっていくようなイメージでよろしいですかね。

○委員長（村田春樹君） たまたまCが一番今回今後努力を要するというので、大変厳しく受け止めなければいけない部分だとは思っているので、それについてもしっかりと自分たちがどう受け止めていくのか、さらにもっといい評価があるのかとか、いい理由や今後の方針などがあるのかとか、そういったところをプラスアルファで付け足すなり、評価を見直すなりする時間を少し設けたいなというふうに思うところです。1期生に関しても、まだ日が浅いところもあるからまだまだ勉強が足りないところもあるのかなと、勉強はもちろんしているとは思いますが、いろいろな経験を積みながら評価も少しずつ変わっていくかもしれませんので、そういったことに関しても少しずつ成長していただければなというふうに思いますので、次の委員会までに出していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） もう1回確認なんですけど、Cの部分も勿論5人以上のところもやりますけど、それ以外のところもちゃんとフォローしてやっていくというのは間違いない。

○委員長（村田春樹君） 勿論。

○1番（鬼田岳哉君） わかりました。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） この評価シート記入するにあたって、結構皆さん真剣に提出しているものだから、基本的にはそうこう急に変わるわけではない。わたし多分何回きても同じようなこと書いて出しますが、そこの捉え方が軽いなじゃないかなと思います。今回どこの部分を修正してやるのかというのをそこをもう1点確認したいと思います。再度出しますと言うけども、どこのところを修正するのか。

○委員長（村田春樹君） Cが5人いたところに関して、例えばCが増える可能性だってあるわけじゃないですか。Cが7人いてBが3人いたところ、これがBの3人がCに変わって10人になるかもしれないし、そうすれば全会一致でもうCということで変わりなく理由、今後の対応方針について考えていけるものだと思いますので、そういったところももう少し皆さんでいろんな議会に対しての評価を考えていただきたいということで時間をつくりたいと思っておりますので、今すぐ全部今日これやるというものではないので、少しずつ評価についても、一度出してもらったものに関しましても見直しも勿論いろんな思いで書いたのは分かっております。その中でも見直ししていったことにまだ気付いてなかった、そういった気づきの部分であったり、そういったことを入れ込んでいただければなと思いますので、先ほど谷仲議員は全部同じもので出すと言っていましたけれども、それもそれで全然ありだと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） わたしが聞いているのは、1回目の評価シートの内容、今度2回目を出すにあたって、どこが違うのか違いを聞いているのですけれども、その違いを聞かせてください。どこの目付が違うのか、このA B C Dある中で、さっき見方が違うというのがあったけれども、どこのところが変わるのかというところを確認してるんですけども。

○委員長（村田春樹君） 真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 今Cが半分以上のところをいくつかピックアップした中で、わたしの考えでは、今ピックアップしたところを再度もう1回そこだけをもう1回評価同じでもいいですが、考えが違う方も出てくるかと思うので、そのピックアップしたところだけもう1度チェックするのもいいのかとわたくしは思いました。

○委員長（村田春樹君） この評価シートに書かれている、例えば第3条（1）ということであるんですけども、この文だけじゃわかりきらない足りないという方は、タブレットの先例集の中の一番下、21番のところの小美玉市議会基本条例逐条解説というのがありますので、それを見ながら照らし合わせて評価のほうをしていただければと思いますので、取り敢えずそういう形でよろしいですかね。

内田委員。

○4番（内田和彦君） わたしは解説という部分を見ながらやらないとわからなかったもので、それを参考にして評価をしたのですが、今言う3条の（1）で言う公平性、透明性等を確保し、市民に信頼される開かれた議会を目指すという条文に対して、わたし議会運営において公平性、

透明性等の確保が不十分だと回答したんですけれども、さっき言ったA B C D評価はそのまま統一してやるようなことも言ったんですけれども、一人一人捉え方が違うと思うので、その条文に対して公平性、透明性等の確保不十分だよということに対しての、じゃ、どこが不十分なのかというところの検証を、そういったところを詰めていったほうがいいのかと思うんですけれども。

○委員長（村田春樹君） あと他市町村の検証評価を見ていたときに、こういうふうに多分いろいろ議論がわかれて、その評価シート見たときに凄く議論がわかれていたなと思ったのが、評価について何も評価されていなくて棒線が引いてあって、個人の意見が多かった為みたいな形で評価が付けられなかった議会もあるようなので、そういったことも最終的にはもしかするといろいろわかれていて、全会一致で中々決まるというのは難しい、これが多分評価だと思いますので、最終的にはある程度多数決というのは良くないのかもしれないですけども、そこに辿りつくのか、もしくはいろんな議論をして皆さんに納得していただいて、C評価だったものがB評価になるのか、それともB評価だったものがC評価になるのか、いろいろあると思うんですけれども、そういったことも中々時間もこればかりに取られてはいけないと思いますので、一旦この検証評価については先ほど申し上げました第3条からありますけれども、それについて今一度見直しというか考えていただいて、次の委員会まだ日にち決めていないんですけども、1週間なり2週間前あたりぐらいに前に、事務局のほうにメールで送っていただければというふうに思います。その他特になければ議会報告会のほうの話に進んでいきたいと思うんですけれども、よろしいですか。

香取委員。

○7番（香取憲一君） 最後に少し頭が混乱しております、凄く大事だと思うのは、いろんな検証結果を重ねるについても、最後のゴール地点の姿というのを、抽象的な意見で申し訳ないのですが、最終的にこういう形で報告をあげましょうというゴール地点の姿をある程度明確にして確認をしながらやらないと見失っちゃうと思うので、議運に投げて全協に投げての前に、最後報告の形はこのような議会活性化特別委員会の最終的に報告する形の内容を、こういうふうにしますというのを逐次示してほしいというか、それを決めていかないと迷走しちゃうんじゃないかと思うので、そこら辺は毎回毎回でもやっていったほうがいいのかと思いますので。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。

その他大丈夫ですか。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 最初わたし冒頭で言いましたけども、委員長報告の構成、それが一番スッキリするかなという話しは一番最初しましたよね、その確認です。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。その他なければ、ここで11時20分まで暫時休憩とします。

午前11時09分 休憩

午前11時20分 再開



2. 議会報告会について

- ・運営について
- ・テーマについて

○委員長（村田春樹君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、議会報告会議会運営についてなんですが、議長などと話合いをしまして、議会全体で今回やる形ではなくて、議会活性化特別委員会が主体となってやってほしいというお話しをいただきましたので、今回議会報告会については、この10人プラス議長という形で進めていきたいと思います。

[「異議あり」と呼ぶ声あり]

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） 議会全体でやらなかったら多分まずいと思うよ、委員会だけでやりますって。そこら辺のところは委員長としてはどう捉えていますか、そこを1点確認します。

○委員長（村田春樹君） 今回新しくワールドカフェ方式でやるということで、皆さん決まったと思うのですが、議会全体でやる場合にワールドカフェ方式としてやるのに、難しいんじゃないのかなというふうに思っております。議員の中で来られる人、来れない人が多分いらっしゃると思うのですが、その把握もそうですし、また、以前議長も言っていました、議会報告会につきましては議会意見交換会みたいな形にしていきたいという話しを受け、さらには各常任委員会ごとに、それぞれ議会報告をやってほしいというお話しもございました。そういった中常任委員会ごとにやるにあたって、試験的にこの特別委員会の中でやっていく、それが一番ベストじゃないのかなというふうに思いまして、今回10人プラス議長でやっていきたいと思っております。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） ワールドカフェ方式でやる中で、来る議員が全員ではなくて、委員会と議長だけでやるというそういう意味かな。

○委員長（村田春樹君） 実際にはそういうふうな形になると思うんですが、他の議員にももちろん声はかけたいと思っております、来られる人。だいたいこの中で役割等を決めてしまおうとなると、他の議員さんたちには下働きみたいになってしまうのかなというところもあるので、難しいのかなと感じているところです。

○委員長（村田春樹君） 谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） そうすると、これ逆だと思うんだよね今言ってるのって。基本的にそのワールドカフェ方式の意見交換会を設えとか、例えば役割分担はこの委員会が設えをやるにしても、会場で市民の皆さんとかとの対話とかそういうところは、これは議員全員いないとまずいと思うんだけど、そもそもの話、出ないの。それは、来る来ないはそれはその場に来れる来れないというのは、各議員さんのケースバイケースであるんだけど、あくまでもその意見交換会というのは、あくまでも小美玉市議会としてやるのが筋だと思うのだけれども、今の話を聞いていると、このワールドカフェ方式の意見交換会は、この委員会がやりますというように捉え方にしかないんだけど、そこがずれていると思うのだけれども違うかな。

○委員長（村田春樹君） この委員会でやりますということは、この委員会が代表して議会の意見交換会をやるという話しであって、例えばですけれども、テーマを決めていろんな団体に声をかけて呼ぶとなった際に、テーブルの数とか、ワールドカフェ方式でやるのでコーヒーとかそういったものを出すとか、あとはお菓子とかスイーツとか色々あると思うのですけれども、そういったことに関してここの皆さんでテーブルホストをやってもらおうとしたら、他の議員さんが来たときには受付けだったり、お茶菓子の手伝いであったりそういう形になってしまうと思うんですね、それでいいのか。

戸田委員。

○3番（戸田大我君） どんなふうなワールドカフェ方式をイメージしているのか、まず、規模とか、例えば10人しか集めないところに議員20人いたら威圧的になっちゃうからそんなじゃなくて、100人単位なのかどんな単位でやろうとしているのか。先ほどおっしゃった試験的にやるというのは試験的にこれをやってみて、継続して次はこれとかあるんだと思うんですよ。どんなふうなのをイメージ描いているのかわたしはこの資料しか見ていないのでわからないので、それをお聞きしてから全員で参加するとか、こちらで出てくるのかなと思うので、

そのイメージを教えていただければと思うのですけれども。

○委員長（村田春樹君） まず、試験的にやると言った意味合いですけれども、最終的にはこの特別委員会で来年も再来年もというわけではなくて、来年は各常任委員会、例えば総務で議会の報告会をやっていただく。また、別の日に文教のほうがどこかの団体と一緒に議会報告会をやっていただく。産建もまた別な日にやっていただくということで、1日に一気に全員の議員が集まって全部の委員会の報告会をするのではなくて、深堀をしながらやっていけるような形をつくっていききたいという話がありましたので、それに合わせて自分たち基盤づくりをしなければいけないということで、今回議会活性化のほうでということに任されましたので、常任委員会ごとにやるための下準備のやり方として、まだ、ワールドカフェ方式全然やったことがないのでどういったものなのか手探りなんですけれども、そういったことをまず自分たちが矢面に立ってやって、それを報告して来年度は各常任委員会ごとにできるような体制づくりのための第1歩です。

戸田委員。

○3番（戸田大我君） 今までの報告会みたいなものは、市民にとっても受け入れがたく古くてかたくてというものだったと思うので、新しく議会としても皆さんが参加できるようなものとしてワールドカフェ方式をご提案いただいているわけですよね。試験的にやるということで、大人数でいきなり意志が統一しないみんな慣れてもないところでやるのは厳しいと思うので、試験的に少人数でやっていくというのがいいのかなとわたしは思います賛成です。よろしくをお願いします。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。

香取委員。

○7番（香取憲一君） 今の試験的に議会活性化でまずやりますということについて、勿論今はじめて聞いたんですけど、今度の議会なりのときに、活性化委員会としては次にこういう議会報告会を予定をしているんですけれども、こういう形で最初の段階は活性化委員会で試験的にやってみましょうと思いますが、先輩議員の皆さん方もメンバー以外の議員の皆さんどうでしょうかという形に持っていかないと合意形成はかれないですよね、どうですかね。

○委員長（村田春樹君） まず、その段階に持っていくために議長のほうからいただいた言葉で、この議会活性化の中で一度話しをして、自分たち活性化でやるよというような意志を見せなければいけないのかなと思いますので、いま運営方法についてお話しをさせていただいております。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） そもそもは議会報告会に代わる手法としてワールドカフェ方式を取り入れると思うんですけど、そもそも議会報告会として今までやってきた中で、議員が出なかったとか、一部しか出ないとかということはあったんですか。

○委員長（村田春樹君） 例えばその当日何か予定があって来られなかったという議員の中にはいらっしやいましたけれども。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） であれば、さっき委員長おっしゃったとおりに、来年は各常任委員会ごとに同じ形式とか方法はまだ未定ですけども、同じような形でやるのであれば是非全員で参加をして運営の方法だとか、どういうふうにしていくかというところは全員で共有する必要性はあるし、議会基本条例にもありますし、ここの条例にも書いてある中で対話を設けることができるとか、多くの市民の市政に感心をもちと、議会活動に務めるところの議員としての責務に関しては、ハッキリ言ってこの委員会だけのメンバーに、言い方選ばなければ押し付けるじゃないけど、ハッキリ言ってもう少し期数の長い先輩たちの押し付けにしか感じられないというか、そういうところに参加をして市民との対話を設けるというところが、やっぱりワールドカフェ方式でやったとしても、いろんな意見が出てそれに議員が応えざるを得ない場面も多々あると思うんです。それを1期成も多い中でまだ期数が短い議員がいる中で、自分たちだけでやってくれというのは議長の意見はおかしいなというふうに感じました。

以上です。

○委員長（村田春樹君） 鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） おそらく議会報告会実施要綱ではなくて、意見交換会実施要綱というのが今後できると思うんですけど、いまのよりどころは議会報告会の実施要綱だと思うので、第2条に議運で決定した委員会が企画運営を行うと書いてあるので、今回に関しては委員長、副委員長一任でわたしはいいと思うんですよ。そこから先は感情的な話になってくると思うので、今回はじめてということであれば、そこは一任でわたしはいいと思いますよりどころとしてね。

○委員長（村田春樹君） 真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 議会報告会なので、なんらかの形で全員の議員が報告会的なことをやるべきだと思うので、先ほど委員長が言ったように、今後は全員一緒に集まってではなくて、各常任委員会ごとにやる方向になってくるかと思うのですね。その前の段階として、各

常任委員会がやる前段として、我々の活性化委員会がやるということで、今回はいいのかなとわたしは思います。

○委員長（村田春樹君） 戸田委員。

○3番（戸田大我君） 常任委員会ごとに報告会とか、意見交換会とかわからないですけど、市民って委員会とか関係ないですよ。教育のこと聞きたければ同じ人でも、産建のこと聞きたいとかいろいろあると思うんですけど、そこを常任委員会で絞ると市民としてはどこで聞けばいいのか、ちゃんと答えられなかったら違う委員会で聞いてくださいというのもおかしいですし、そういったのも少し工夫して考えていただければと思います。

以上です。

○委員長（村田春樹君） それぞれに多分各常任委員会ごとになった際には、それぞれにテーマを設けて意見交換を行うと思いますので、テーマに沿っていない質問というのが中々出にくい状況にはなるのかなと思います。一応そういう形で次の議運のとき、さらには全協のときに、議会活性化特別委員会のほうが主体となって、今回の1月に行えるか2月に行えるか、その時の議会報告会、（仮称）議会意見交換会ということで、主体となってやっていくということで、よろしいですかね。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） そうするとこれは、主催は小美玉市議会議会活性化委員会という形になるかと思います。次議運のときに委員長に言ってもらいたいんだけど、あくまでも基本は小美玉市議会としてやるのであれば、例えば段取りとか設営はこの活性化委員会がやるのは当然、だけでも当日については議員全員いなかったらおかしいよって谷仲が言ってたって伝えといて議会運営委員会。なんでかという、市民の皆さんというのは、さっき発言があったように、どここの委員会今日はこのテーマでというのは関係ない。例えば市民の皆さまからすると、年何回そういう場、例えば毎月1回やっているのであれば、そういう案内の仕方でもできるけれども、限られた回数の中でそういう機会というのはめったにないと思うので、そういうときには当日メインのテーマはこれでも、その他のところでいろんなこと聞きたいというときに、そこは議員全員いる形がベストだと思います。あとはワールドカフェ方式いろいろなテーブルいるにしても、1つのテーブルに、テーブルを6つ作ったとすると、そのテーブルに議員さん2人とか3人という割合で配置していけば、そんなに議員ばかりとはならないかと。あとは意見交換会にどれだけの人が来ていただけるような準備段取りを議会側がするかどうか。ただ、はいやりますと言っても当日人が来ないからしょうがないじゃなくて、どうやったら来

てもらえるかというところまで含めてこの活性化委員会で段取り設営そういう形だと思いますよほんとは。この話はちゃんと次議運で委員長のほうから伝えといてください。伝えたことに対して議運がどういう回答をしたかというのを次の委員会で聞きたいと思います。よろしくお願ひします。

○委員長（村田春樹君） まず、ワールドカフェの定義というものに関しまして、そちらに書いてあるんですけど、読み上げさせていただきたいと思います。

ワールドカフェの定義は、カフェでくつろいでいるようなリラックスした雰囲気のもと行われる会議のこと。参加者は4人から5人ずつにわかれ、テーブルごとに対話をするといったもので1,000人でもできます。一定時間が過ぎればメンバーを入れ替え対話をするを繰り返します。少人数で対話をする事で相手の意見を聞きやすく、自分の意見も言いやすいのが特徴です。そうなんですけども、実際に4人、5人ぐらいのテーブルのところに、2人、3人も議員いたら威圧感があると思うので、議員に対しては1つのテーブルにつき議員1人、あとは市民の人という形でやっていきたいというふうに自分のほうでは考えていて、ワールドカフェの効果ということで、カフェでお茶をしているようなリラックスをした雰囲気の中、テーマに沿った対話ができるため、様々なアイデアや意見を出しやすい、気持ちにゆとりを持って話し合いができる、相手の意見に自然と耳を傾けられる。自分の意見も尊重される。一体感をもった対話ができる。メンバーの組み合わせを変えながら4人、5人単位の少人数での話し合いを続けることで、あたかも参加者全員で話し合っているような効果が得られるというものでございます。テーブル1つに例えば5人の場合ということで、9テーブル用意した場合のものを書かせていただきました。ここにいる3の部分テーブルホストとして、必ず動かないで時間になったらA1、A2、A4、A5この人たちが、皆さんもテーブルホストを除いて全員移動します。テーブルホストというのは皆さんの意見をしっかり聞いて、ここに模造紙、ペン、そういったものを用意するんですけども、そういった模造紙にいろいろ皆さん書き込んでくれたもの、いろんな意見を出してくれたものに関して、必ず模造紙、ペンを使って議事録的なものに近いのを作成していただいて、次来た人たちに説明ができるような形。最初のAのグループで話していたことに対して意見の出し合いをしました。それを何回も繰り返していくことによって、Aの人がIとかHとかGとか、遠くの人の意見も聞けるようになるため、いろんな話題ができるようなものがワールドカフェ方式というものでございます。そんな中で全部のテーブルにテーブルクロスとか花で雰囲気をつくったりとか、ドリンク、コーヒーとか、あとはお菓子、スイーツとかそういったものを食べながら、皆さんとリラックスした状態で会議ではなく、議論とか

そういったものでなくて、対話ということでいろんな話合いができるんじゃないかと思っております。また、トークキングオブジェクトを用意すると書いてあるんですけども、この例えはペンとかでもいいです。棒とか石とかボールとか、このトーキングオブジェクトというのは、話をする人が手に持つアイテムであって、意見を言うときに話す人がトーキングオブジェクトを持って話を始めるとか、話が終わったらそのトーキングオブジェクトを置いてテーブルの中央の元の位置に戻して、今度話したい人がそのトーキングオブジェクトを取って話を始めるという決まりごとによって話し手と聞き手それぞれが自分の役割を意識できるということで、自分の話を回りは聞いてくれる、そういったものを実感できるものなんですね。それもしっかり用意したりとか、もし 10 人でやるとなったときに、1 名ファシリテーターとして司会者に近いような、まとめたりする方を 1 名用意して、各テーブルちゃんと話し合いができていけるのかなということで見て回っていただいて、15 分なり 20 分経ったら席替えをお願いいたしますということで皆さんに席替えをしてもらって、何回か席替えをやったあと、最終的には皆さん最初に A に居た人は A に戻ってきて、B、C、D って皆さん自席に戻っていただいて、最終的にいろんなところで話し合ったもの、それを模造紙だったりに書き記して行って最終的に発表するとか、これだけ多いと全員発表は難しいと思うのですが、発表したいテーブルがありましたらということで発表するか、もしくは全員に発表してもらおうとか色々やり方あると思いますので、こういう形、説明下手であれなんですけども、こんな感じですねやり方としては。

真家副委員長。

○副委員長（真家 功君） 丸書いた人が議員になるわけ。

○委員長（村田春樹君） そうですね。丸書いた人が説明もしやすいのかなと。どちらかって言うと市民の人から議員に対して、これどうなっているんだと話し合うテーブルではなくて、こういうところで話すものに関しては、ほんとにざっくりした感じなんですけど、例えば小美玉の将来についてとか、子どもの未来についてとか、こういったところから、子どもの未来についてどういうことがあげられるのかなと言ったら、学校、通学路、遊び場、皆さん何かしら思いつくものがあるので、それについてまた深掘していきましょうと色々な意見を出してもらおうような形をやって行って、最終的に学校についてはこういうものがあつたらいいよね、遊び場はこういうものがあつたらいいよね、通学路だったらこういうふうにしてもらったほうがいいよねという市民の方の意見を吸い出して、聞き出していけるのがワールドカフェなのかなというふうに思っています。いろんな知識というかももちろん必要なんだろうけれども、どち

らかというと市民の人とのテーブルごとのコミュニケーションを取りながら、いろんな話題を聞き出していき、そういう作業になってくるのかなというふうに思いますので、先ほどこの委員会だけという話ししましたけれども、ここに先ほどの図を見てもらって、9テーブル用意するとなった場合、残り他の議員さんに来てもらいのであれば、先輩議員に大変申し訳なくは思うのですが、コーヒーであったり、お茶であったりそういうもの、あとはお菓子とかそういうものを出してもらおう。あとは受付やってもらおうとか、そういうものになってきちゃうのかなと自然と、確かに怒られるかもしれませんがけれども。

香取委員。

○7番（香取憲一君） 途中でメンバーが、議員が入れ替わると意味がなくなっちゃう。

○委員長（村田春樹君） 議員は入れ替わっちゃダメですね、意味がなくなっちゃう。議員は終わるまで。30分くらい経ったら休憩というときには、もちろん休憩とれますけれども、その間こと決まった人たちはみんなそのまま最後まで。来た人たちにこういう話しが前回出ましたというのを説明しなければいけないと思いますので。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） テーブルは9つで。

○委員長（村田春樹君） 9つと決めてはいないんですけども。

○13番（谷仲和雄君） 今の話で前提させてください。

○委員長（村田春樹君） はい。

○13番（谷仲和雄君） テーブルが9つ議員が1人、これ実際経験したことあるけど、1人の人が話進行しながら記録をとるというのは難しいと思うので、議員さん2人いたほうがいいのかと思うよ。それで9つ少人数で話す中で、1人が話し書きながらだと絶対無理無理やったことあるこういうの、俺はあるけどそういう場経験したことあるけど。

○委員長（村田春樹君） 議事録といっても全部一語一句。

谷仲委員。

○13番（谷仲和雄君） それで一語一句書き渡らさないにしても、その言葉のキーワードをメモするだけでも考えながらやるから、話ししながら書いてたら逆に来ている人に、やっぱり目を見ながら話ししないとそういうのは。そうするとこれは無理がある。テーブルの数この数でいくのであれば、1テーブル議員2人いないと無理だと思うよ、書けない、絶対書けない。

○委員長（村田春樹君） 模造紙とペンで自分たちが書くと言いましたが、市民の人が意見を出してその模造紙に。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 今日手法とあっていいとは思いますが、この手法でやるというのはいいんですけど、手法技法を今話してもしょうがないのかというところがあって、その前提で何の為にやるのか、こういう目的をもってやりましょう、じゃこういった効果も得られるよねっていうふうなところの考えがしっかりしていなければ、手法技法なんてそこがしっかりしていればなんだったっていい話して、そこがしっかりしていないからじっくりこないし、今何人とかこういう方法でやればいいよねとか、ワールドカフェ方式ももちろん1つの手法として勿論なんですけど、今委員会としてどういうふうなスケジュール間で次議運にどういうふうな話をもっていったって、委員会が市民との対話をもつ会をもちますと。じゃ、それはその委員会ですらやってくださいねということができたら、この委員会にこういうふうな会を持つので、じゃどういうふうな目的で、どういうふうなテーマを持っていきましょかっていうところの話をして、それだったら今後ワールドカフェ方式でいけるよねっていうふうにしていかないと、手法技法をいくら話しても何ら前に進まないというところがあるので、この委員会1回目から言いましたけど、1個1個ちゃんとスケジュール感をもってやらないと、委員長がワールドカフェ方式でやりたいという思いは凄いわかったので、手法技法としてこれがやりたいのであればその前段でどういうことを話し合っ、市民とどういうふうな対話をもつていったって、こういう意見をもらいたいねと。こういうふうなものにしたいよねっていうところがないと、なんらピントこないというところがあるので、これは手法として決まった段階で、これであてはめていくというのは凄いいいと思うので、現段でこの手法を今話しても時間だけが過ぎていってしまうと思うので、まずはどういうスケジュールで2月とか3月にやるのであれば、どういうふうなスケジュール感でやっていくかというのをしっかりと正副委員長のほうでしっかり固めていったいただければ、その都度の委員会でもここまで議運でこういうことが決まったのでこういうふうに進めていきたいと思っておりますということで、指導していただければ意見はいくらでも出せるので、そういうふうに進めていただければ、ワールドカフェ方式の手法とか技法とかわかったので、そういったところを進めていただければなと思います。

以上です。

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。一応今回の委員会の中で、開催内容についてどのような内容にしていくのかということで、前回ワールドカフェ方式でという話があったんで、内容としてテーマの決め方とか、どういうやり方で呼ぶのか、例えば子どもの未来について話したいんだというのであればPTA関係とか育成会とか、いろんなそういう団体があ

と思うので、そういったところにお声掛けをする。あとはそういう団体だけじゃなくて、市民の人にも声を掛けて呼んできてもらうのかとか、そういうところも皆さんと話したいなどは思ってたんですけど最初から中々行きつかなかったので、テーマとして小美玉子育てパッケージでしたかね、ああいう話しも今年度から出てきていますので、それについて脱線してしまうんですけども、山崎委員のインスタを見たときに、仲間内で報告会みたいな形のをやったというのがありまして、それを見せていただいたんですけども、まさに小美玉子育てパッケージ注目されてるもののひとつだと思うので、そういったことに関して、子育てに関しての意見を幅広く取り入れていきたい。そういったことでテーマのほうは、わたくしの独断になってしまっただけなんですけど、子育て関係で進めていきたいんですけども、どうですかよろしいですか。

鈴木委員。

○10番（鈴木俊一君） テーマとか、そもそもターゲットを先に決めるのか、それともテーマを決めるのか、順番を最初に決めてこういうグループを対象にといたらこういうテーマになってくるし、対象先を決めればそのあとテーマも決まってくるし、テーマを先に大雑把に決めておいてそれからやっていく。そうすると人数も1,000人規模でやるのか30人なのか100人なのか決まってくると思うので、テーマを先に決めたほうがいいのか、呼ぶターゲットを先に決めたほうがいいのか、そこから順番先ほどの山崎委員じゃないですけど、決まってくれば全部決まってくると思います。まず、どっちが先かターゲットなのかテーマなのかというのを先に。

○副委員長（真家 功君） テーマかな。

○委員長（村田春樹君） テーマも決まってくれば先ほど子ども関係と言ったらPTAとか育成会とか、子どもを持つ親とか、いろいろそういうところでなんとなく決まってくると思うんですけども、そういった感じでいいですかね。テーマについては、子育て関係、子どもの未来についてとかそういった抽象的な形で。それで呼ぶ方についてはPTA関係もそうだし育成会、あとはどこか何かありますか。人数としては50人いかないくらいで十分かなと思うんですけど、1テーブル4人、5人でとこなんで。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） 今日どこまで決めますか。例えば、今日決めたことをどこかに報告しなければならない、そういうことではなくて。

○委員長（村田春樹君） 9月の定例会のときには、開催する内容について報告したいとは

思っておりますので。

山崎委員。

○5番（山崎晴生君） そしたら先ほど委員長がおっしゃったように、子育て関係のことをテーマに、手法としてはワールドカフェ方式で今後開催の詳細、内容とかは委員会で今話しているようにテーマをもうちょっと絞りこんで、あとは団体どこを呼ぶかとか、あとは何人呼ぶかとか、そういったものを決められればいいんじゃないかなとは思いますが、

○委員長（村田春樹君） ありがとうございます。12時になってしまったので、次の活性化いつにするか、8月中にやるかそれとも9月定例会に入ってからやるか、検証のほうもあるので9月定例中にもう一度委員会のほうを開催して、日にちのほうは後日改めて報告させていただきたいと思います。

その他ございませんか、大丈夫ですか。

鬼田委員。

○1番（鬼田岳哉君） 今の報告会の話に戻ってしまって恐縮なんですけど、9月定例の段階でテーマと、どこに声掛けた、声掛けるとスケジュールが決まってくると思うんですけど、9月からの翌年の1月か2月みたいな前回話が出ていたと思うんですけど、そのスケジュール感覚で大丈夫かなというところが不安で、もしあれだったら8月にわたしは報告会短くてもいいと思うので1回やったほうがすっきりするのかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

○委員長（村田春樹君） 8月に報告会をやる。

○1番（鬼田岳哉君） 報告会のテーマを決めて、どこに声掛けるをするかスケジュール感覚を決める、それだけは8月に決めておいたほうが9月になってからだと10月、11月、12月って以外と時間がないんじゃないかと思って、もしそれで皆さんOKだったらそれで大丈夫なんですけど、今ここまで委員長から子育てという話が出たのであれば、息継がずに早めにやったほうがいいのかと思った次第です。

○委員長（村田春樹君） そしたら、お盆前かお盆明けですかね。

鈴木委員。

○10番（鈴木俊一君） 委員長、副委員長である程度原案をつくっておけば9月からでも間に合うかなと思うんですけど、たたき台があれば。あとスケジュールもこういうふうやって大まかなところだけやって、たたき台つくってあれば間に合うような気もするんですけど。

○委員長（村田春樹君） 宮内委員。

○2番（宮内勇二君） 毎回議会活性化委員会に出て思うんですけど、前回ワールドカフェ

方式をやると決めたわけであって、ここまでは話しを決めるとか、タイムスケジュールとかありましたけど、ある程度委員長にしっかりもんでもらわないと、今日もこの会議がなんだったのかとぼやけちゃうし、何が決まったのかなとか。さっきのたたき台をつくってとかじゃないですけど、そういうのをしっかり持っていただきたいなとわたしの要望です。

○委員長（村田春樹君） 前回は意見交換会についてのスケジュールのほうも出させていたでいて、それに沿って進めていきたいとは思っているんですけども、中々思うようにうまく進まないところもありますので、そういったところしっかり皆さんにもご協力いただいて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その他ございませんか。

[「発言する者なし」]

○委員長（村田春樹君） なければ、9月定例に向けて副委員長としっかり話し合っ進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。副委員長に変わりたいと思っております。

○副委員長（真家 功君） 冒頭遅れてしまい申し訳ありませんでした。

以上をもちまして、議会活性化特別委員会を閉会いたします。

午後12時04分 閉会